



「結いの心」が育む

加藤 5年前前になるでしょうか、長浜の小学生たちに歌を指導する機会があり、そのときの子どもたちは、礼儀正しく、とても元気でした。

市長 長浜は、「結い」の精神が息づいたまちでもあります。それは、人々の手により守り継がれた伝統文化からも窺えます。例えば、秀吉に男子が誕生したことに起因する「長浜曳山まつり」は、400年続いて

るで子どもを生み育てたいと思っている人が多いのかなと思います。私が行ったときも臨月の人が8人もいましたからね。環境の良い長浜は魅力的です。移住者を増やす政策は今後非常に大切になってきますね。

市長 そのとおりだと思います。本市も移住希望者に住居や土地の情報を提供する団体を支援したり、移住希望者を集めてセミナーを実施するなど、昨年度から本格的に取り組んでいます。

加藤 是非、道筋をつけてほしいですね。大都市では、仕事に追われて、家族と共に過ごす時間も少ない人も多いですが、田舎暮らしな

ら、仕事もして、家族と過ごす時間も楽しめるということもあると思います。どつちが幸せか、一度考えてもらうために情報をどんどん出すことが大切なことだと思います。

市長 長浜は、自然に恵まれ、京阪神や中京の大都市圏へのアクセスがすごく良いので、この場所だから味わえる暮らしがあると思います。便利で、それでいて環境もいい、是非積極的に長浜の暮らしをアピールしていきます。



を大切にして、暮らしやすいまちを目指していただきたいです。私も何かお役に立つことができましたら、協力したいと思います。

市長 加藤さん、力強いお言葉ありがとうございます。私も新年にあたり、決意を新たに12万市民の幸福と元気で活力ある長浜市を創るために全力投球します。加藤さんの抱負もお聞かせください。

曳山まつりでは、山車の舞台で男の子たちが歌舞伎を演じるのですが、まつりを支える大人との関わりの中から歌舞伎だけでなく礼儀なども学んでいるようです。

加藤 やはり歴史がありますね。私は、長浜曳山まつりをまだ見たことがないので、一度見てみたいですね。

市長 ぜひ、いらしてください。子どもたちは、わずか3週間程の稽古にもかかわらず、プロ顔負けの演技を披露しています。そしてこの子どもたちが大きくなって、次の世代を指導することで、世代を越えてつながっています。

加藤 子どもたちが地域の大人と触れあいながら、もまれて育つ環境があるのは貴重ですね。

市長 長浜には、子育てしている人が孤立することのないよう「皆で子育て」というという風土があります。それを活かして未来を担う人育てに力を入れていきたいですね。

長浜の魅力ある暮らしを発信

加藤 私は、夫の後を継いで、千葉の鴨川に農園を持っているんですが、農園には移住してきた人がたくさんおりまして、30歳で脱サラした人など経歴も様々です。

農園は、交通の便が悪いとか、近くに学校がないとか、そんな問題がありますが、若い人たちは工夫して暮らしてくれています。

市長 長浜でもありがたいことに最近移住者が増えてきて、古い町家に住んでいる人がいます。聞いてみると、まだまだ使えるものがあるのに、使わないのは格好が悪いという、そういう考えの若者が増えてきているようです。彼らが、長浜のまちを変えてくれるような気がしています。

加藤 移住者にはネットワークがあつて、私も農園に何度か顔を出していますが、移住してくる人は希望に燃えていますし、環境のいいところ

加藤 歌手生活51年目に向けてのキックオフということで、昨年「百歌百会」というアルバムとシングル曲を出しています。歌に出会いあり、出会いに人あり、ささやかな生きる営みに歌が寄り添っている…そんな想いを込めてこれからも歌い続けていきます。

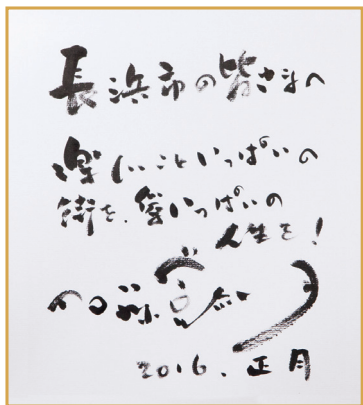
「人生に乾杯 出会いに乾杯 別れに乾杯」そして今日の日に乾杯」これは、百歌百会の出だしの歌詞です。長浜の皆さんとの出会いに感謝し、皆さんの人生が愛いっぱいのもとなりますよう、そして、楽しいことがいっぱい長浜でありますようお祈りしています。



歌手 加藤登紀子さん

1965年東大在学中に第2回日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝し歌手デビュー。昨年歌手生活50周年を迎えた。「琵琶湖周航の歌」「百万本のバラ」「知床旅情」など多数のヒット曲がある。最近は、FUJI ROCK FES' に毎年出演。世代・ジャンルを超えた活動が目立っている。東日本大震災被災地の復興支援ライブ活動も実施している。

また、2009年に「滋賀ふるさと大使」就任、長浜バイオ大学の校歌作成など滋賀・長浜との縁も深い。



加藤さんからのメッセージ